は三千五百）に達するや敵は急に反擊し來り反航戰を交へ應戰約五分間敵は優秀なる性能を利用して常に高度の優越を占めたるも決戰するに至らず遂に敵は西蘇州方面に避退し遂に其影を見失ふに至つた。此戰鬪に於て我二番機にはプロペラー貫通一彈、主翼に彈二發を受けた。後日に至つて判明したが此の敵機は米人ロバート・ショートの操縱するボーイング機で前日支那側が米國より受領し、上海航空廠に於て徹霄工事を急き組立を終り當日午后四時三十分最初の試驗飛行として虹橋飛行場を離陸し南京に赴くの途中に我と交戰したものであつた。

五、二月二十二日蘇州上空の戰鬪

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

敵優秀機の挑戰は突如として我全空軍を緊張せしめた、蘇州方面の警戒は最も周到なる注意を要することとなつた、我航空隊は二十日、二十一日數回に亘つて此の方面を偵察したが得るところがなかつた、然るに二十二日午后左記加賀攻擊機及戰鬪機は隊を爲して偵察に向つた、

我が偵察部隊

攻擊機隊

小隊長大尉小谷進

一番機　操縱中尉崎長嘉郎

指揮官大尉小谷進

電信、射手一等航空兵佐々木節郎

二番機　操縱　三等航空兵曹稻田久松

軍令部戰史編纂原稿乙（花崎納）

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

偵察　二等航空兵曹　濱田善太郎

三番機　操縦　三等航空兵曹　勝部　勝

偵察　一等航空兵曹　川嶋八千尾

戰鬪機隊

一番機　大尉　生田乃木次（小隊長）

二番機　三等航空兵曹　黑岩和雄

三番機　一等航空兵　武雄一夫

午后三時四十分小谷隊及生田隊は公大前進基地を離陸出發し、偵察の目的を以て蘇州上空に向つた、時に斷雲あり雲高九百米風向北東風力四視界約五浬で濛氣があつた、四時十四分蘇州飛行場上空偵察機隊は高度九百米戰鬪機

軍令部戦史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

敵機發見

隊は高度千五百米に達し折から斷雲晴れたるを以て上昇せんとした、次で十五分小谷隊は右前方千米の距離高度約三百米に敵戰鬪機「ボーイング」一基北東に向け上昇中なるを發見し直に左旋回を行つた、生田隊も殆んど同時に敵機を背後下方約千米に發見した、茲に於て生田大尉は直に攻擊を命じた、右翼に在つた三番機は直に右旋降下によりて敵機に迫り之を追ひ距離二百米に接近し右後下方より射擊を加へた、然るに敵機は我小谷隊機に迫り後下方距離約五百米より射擊しつゝ上昇した、我三番機は之と應戰し互に射擊を交換すること數分にして分れたが我に何等の損害なく敵機は上方に去つた、

平和研究史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

彼我二十米に迫る

小谷大尉戰死

敵機は左後上方より再び小谷隊に迫り來つた茲に於て我隊は機首を下げ機速を增大し距離約四百米にて各機敵に應戰射擊を加へた、敵機は更に急降下を以て後方より小谷機に迫り三百米の距離より射擊を初め約二十米に接近し來りたるを以て三機は猛射を加へ敵機に集中射擊を加へたが此間敵に多數の命中彈を與へたのを目擊することが出來た、敵彈も亦一番機に命中し、小隊長小谷大尉は壯烈な戰死を遂げ佐々木一等航空兵は負傷した、此時三番機の川島兵曹は敵機の操縱者が仰向けになるを認め次で白煙を曳きつゝ一番機下方十米の極近距離を通過し緩除なる上昇右旋をなし去つた、此時上空より生田隊は敵

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

表彰

機の後方に迫り距離二百乃至百米にて射撃を行ひたるが之と同時に黒岩兵曹の二番機は敵機の後方下方より追尾しつゝ射撃し距離二百乃至百米に至り敵操縦者の致命負傷狀況及揮發油噴出するを目撃することが出來たゝ次で十數秒にして敵機は右垂直横滑り狀態となり同時に發火し左錐揉となり墜落したのである。時に午后四時十七分敵機を發見し之を撃落する迄僅かに二分間の戰鬪であつたゝ生田、小谷、兩隊は四時二十分歸途に就き虹橋飛行場上空を偵察しつゝ午后五時十五分公大基地に歸着した。

右の行動に對し野村司令長官は左の如く表彰された。

表彰

軍令部戦史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

小谷小隊及生田小隊ノ適切勇敢ナル敵戰鬪機撃墜ハ帝國海軍航空史上ニ一新紀元ヲ劃セリ其ノ功績ヲ表彰ス

昭和七年二月二十二日上海旗艦出雲

第三艦隊司令長官　野村吉三郎

左記は當時發表された故小谷少佐戰死の狀況で右の狀況を更に詳かにするものであるから左に全文を掲げやう

故小谷少佐戰死ノ狀況

二月二十二日午後三時四十分小谷大尉ノ指揮スル攻撃機三機ハ生田大尉ノ指揮スル戰鬪機三機ヲ掩護隊トシテ蘇州飛行場偵察ノ任務ヲ帶ビ上海公大前進飛行基地ヲ出發午後四時十四分蘇州飛行場ノ東方一浬ニ達セシ時前方ニ

軍令部戦史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

敵ノ戰鬪機一機上昇中ナルヲ認メタリ當時敵ノ高度約三百米我攻擊機隊ハ高度千米味方戰鬪機隊ハ左前上方ニ在リ小隊長小谷大尉ハ列機ニ「敵機見ユ」ノ信號ヲナシ左ニ旋回シテ戰鬪ノ準備ヲナセリ。

第一回敵ハ左後上方ヨリ降下シテ我嚮導機ヲ攻擊スルヤ我攻擊機隊ハ緊密ナル編隊ヲ保チ後席ノ旋回機銃ヲ以テ敵ニ猛射ヲ加ヘタリ第二回ハ第一回ト同樣左後上方ヨリ降下シテ嚮導機ニ向ヒ來レリ然レ共第一回第二回攻擊ハ敵味方共ニ損害ナシ敵ハ第二回ノ攻擊ニ引續キ下方ニ入リ後下方ヨリ嚮導機ヲ射擊シ距離二、三十米迄肉迫接近スルニ至ル我カ三銃火ノ中ヲカクモ深ク入リ來レルハ敵

軍令部戰史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ナガラ勇敢ナリ此ノ接戰ニ依リ敵彈ハ我嚮導機ノ中央部ニ六發命中內三發ハ中間席ノ小谷大尉ニ命中（一發ハ左眼ノ上方一發ハ左胸一發ハ右腋）シ大尉ハ壯烈ナル戰死ヲ遂グルニ至レリ更ニ一發ハ機銃ニ就ケル佐々木一等航空兵ノ右足ニ命中セリ。

サレド同時ニ敵モ我集中銃火ニヨリ「ガソリンタンク」ヲ打拔カレシモノノ如ク白煙ヲ曳キツツ下方ヨリ我ガ隊ノ前方ニ出デ急上昇セリ此ノ時味方戰鬪機ハ敵ノ後上方及後下方ヨリ猛擊ヲ加ヘ遂ニ敵ハ右錐揉ミトナリテ火ヲ發シ墜落スルニ到レリ嚮導機操縱者崎長中尉ハ戰死セル小谷大尉ト重傷ノ佐々木一空兵ヲ乘セタル儘隊形ヲ亂ス

軍令部戰史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

コトナク蘇州飛行場ヲ偵察ノ上午後五時十五分飛行場ニ歸着セリ。

小谷大尉ハ我國ニ於ケル空中戰鬪第一回ノ戰死者タルト共ニ敵機ヲ打墜シタル最初ノ殊勳者タリ後ニ敵ノ操縱者ハ米國人ニシテ豫備陸軍中尉「ロバート・ショート」ニシテ其飛行機ハ米國製「ボーイング」ナル事判明セリ敵飛行場ニ近ク敵ノ眼前ニ於テ敵ノ最優秀機ガ而モ優秀ナル操縱者ヲ乘セテ射墜サレ味方ハ隊伍堂々悠々トシテ敵飛行場ノ上空ヲ偵察シテ歸還セルノ事實ハ以テ我軍ノ士氣ヲ宣揚シ敵ノ士氣ヲ阻喪セシムルニ絶大ノ効果アリシモノト認メラル。

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

此ノ戰鬪ニ於ケル小谷大尉ノ奮戰ハ我航空戰史ノ華ニシテ其ノ壯烈ナル戰死ハ朝日散レル櫻ニモ喩フベシ　（終）

空中勇士の歌

壯烈江南空中戰の勇士と譽れの愛機

軍歌　空中艦隊の歌　　長田幹彦氏作詩

仰げば雲の果て遠く　銀翼つらねごうごうと
大鵬六機今日もまた　江南さして驀進す
わが爆擊の大威力　虹橋蘇州も何のその
微塵に碎く飛行場　刃向ふものは唯一機
小癪な敵よそれ打てと　忽ち晴れの一騎打ち
翔るは鷲か隼か　疾風の如き逆落し
指揮官小谷鬼大尉　壯烈空に死すとても

軍令部戰史編纂原稿甲乙（花崎納）

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

妙技をつくす戰術に　敵機は燒けて墜落す
夕波暗し黃浦口　屍を負へる若鳥を
いたはり抱く母艦こそ　げに空軍の母なれや
甲板に白く霜冴えて　眠れぬ夜半の釣床
いで明日こそは亡き友の　仇をと誓ふわが勇士

敵機要目

我が撃落した敵機は米國のボーイング機で世界有數の良戰鬪機と謂はれて居るものであつた其要目は次の如くである。

ボーイング（F、A、B、一型）
發動機　ウオスプ四五〇馬力
巾　九、一四米

軍令部戰史編纂原稿乙（花崎納）

(8. 2　10.)

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

長　六、三〇米
自重　七二〇瓩
搭載量三六〇瓩
全重要一、〇八〇瓩
速力　一五八節
上昇力十分間に五、四八六米

ロバート・ショート

之を操縦したのはロバート・ショート（二十七才）と稱する米國の豫備中尉でワシントン州の生れ、嘗て陸軍飛行隊にパイロットとして勤務したが後豫備となりカリフオーニヤ州のホリウッドの飛行家として有名となつた、前年F、N、シユメーカー中佐と共に日本に來り、シチ

軍令部戦史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ー、オフ、タコマ號で太平洋横斷飛行を企て遂に目的を達し得ざりしことは我國人の記憶に新たなるところである、彼は最近米國L、G、ゲール會社々員となり支那に來り、飛行機の賣込並に航空路開拓事業に携はらんとして居つた、彼は嘗て廣東にも行き十九路軍の將士と知己となつて居た、彼の參戰は明かに中立國人として違反行爲であるから二月廿四日付を以て村井總領事は米國總領事カンニンガム氏宛抗議した、其全文は左の通りである、

我が抗議

本總領事は本月二十二日午後アメリカ飛行士ロバート・ショート大尉が中國飛行機に搭乘して蘇州の上空に於いて日本海軍飛行機と交戰し小谷海軍大尉を射落し

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

たるのち日本飛行機から射落されたとの二十四日附チヤイナ・プレス及上海タイムスの報道に就いて貴總領事の注意を喚起する光榮を有し候若し右の報道が事實なるに於ては今後同様の事件の發生を阻止すべき必要なる手段を講ずることは貴總領事に於ても極めて適切なるものと認められんことを希望し本事件に對して貴總領事の注意を喚起するものに有之候

在上海日本帝國總領事　村井倉松

米國總領事　カンニンガム殿

之に對し米國官憲では彼は米國々法を破つて支那軍に從軍したものであるとの見解を持して居つたゝ支那側が盛

軍令部戦史編纂原稿乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

んに彼の義勇を讃美したのは勿論であるがショートを誦つた左の詩の如きは却て我海軍航空隊の活動を物語るものであるから其全文を掲げやう。

蕭德紀念碑歌

蕭德上尉紀念碑歌

蕭德上尉之死、吾友王君既爲之傳、玆者蕭母來滬、葬上尉遺骸於虹橋飛機場、各界有爲上尉立紀念碑之議、爰爲此歌、以促其成、

雷雨如聞轉戰急、精靈閃　崇碑立、兀地排雲骨作陵、四萬萬人同雨泣、當時敵機江上來、殺氣所透青天開、鐵彈擲雲不知數、下方人屋皆飛灰、君也慷慨奮臂起、

軍令部戰史編纂原稿紙乙（花崎納）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

是何醜類乃敢爾、猛虎居然附翼飛、我獨非人忍坐視、
立馭飛車逐敵行、敵爲膽落天爲驚、風雲蹴踏來酣戰、
嶽動山搖銀海眩、星官飛將下層霄、闔閭城頭走雷電、
敵機上下連環攻、一機應戰何從容、須臾　火殲賊一、
君亦一彈穿當胸、三十三天燭龍墜、忠魂烈魄玻璃碎、
嗚呼君死爲誰死、有身但殉正義耳、如君一死關蒼生、
華德戈登何足比、浩氣化虹吐千丈、片石嵯峨足瞻仰、
至今辟歷響吳天、靈旗甲馬猶來往、我爲君碑贊一詞、
三字當刻和平碑、

六、二月廿三日蘇州及虹橋飛行場の爆擊

前日の戰鬪に依り蘇州、虹橋方面に敵機の跳梁すること

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp